

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知南：探究型学習について
--------	------------------------------	------	---------------

**【概要・目的】**

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、学習の振り返りを中心に協議。

**平成28年度の当初計画（P）**

**【本年度の到達目標】**

- (1) 探究型学習推進チーム、中学校・高等学校教科会（国語、地歴公民・社会、数学、理科）が連携して、協調学習などのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の研究をさらに推進し、生徒が話し合いを通して自ら思考を広げ深めていき、表現できる効果的な指導法を研究する。
- (2) 探究型学習（協調学習）事例集」を活用するとともに、第2集を作成する。

**【本年度の取組内容】**

- ① 数学、理科、英語の授業実践を重ねる。(国語、社会は昨年度からの継続実施)
- ② 評価項目やワークシート作成の研究
- ③ 思考の深まりを言語化したものを適切に評価できる評価方法の検討
- ④ 実践事例集の作成（普及していく観点をふまえた事例集の作成）

**【第1回グローバル教育推進委員会でのご意見】**

- ・振り返りの際に、思考を言語化させることは難しくそれが表現されていないことがある。時間がかかることではあるが、言語活動の工夫が必要である。(英語教育プログラムでも同様のことが言えるのではないか)
- ・教科間のつながりを持たせた取組を実施してはどうか。(他教科の調べ学習の中で英語の資料を使用するなど、学び方ではなく、学際的に教科間の窓を一緒にしてはどうか)

**【第2回グローバル教育推進委員会でのご意見】**

- ・探究型学習をする時には、どういった思考を見取りたいのか、どこの思考プロセスを見たいのか、あるいは、どの知識がないから思考が深まらなかったのかについての見方、見取り方を生徒に教え、学習の振り返りを習慣化する必要がある。
- ・アクティブ・ラーニングの授業の中に、いかに難易度の高い課題を取り入れ、学力を向上させる部分を落とし込めるかは、教員の腕の見せどころである。しっかり見極めて、授業設計をしていただきたい。
- ・「対話的な学び」を表面的な活動で終わらせているだけのものが多いが、これからは、「深い学び」や「主体的な学び」の部分はどう入れていくのがポイントである。

**平成28年度の取組状況（D）**

**(1) 協調学習などのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業研究の一層の推進**

**① アクティブ・ラーニング型授業の実践**

・昨年度から年間を通じて校内で公開授業や研修等を実施してきたことで、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善の意識が中学校、高等学校ともに高まった。

**■教科間のつながりをもたせた横断的な取組**

- ・「授業力向上・授業改善自己プラン」に基づき、特に6、11月を強化月間として公開授業や授業参観、研究協議を行うなど、教科や校種を超えた交流を行い、11月末までに全員が1回以上公開授業を行った。
- ・探究型学習推進チーム会や校内研修会では、教科を超えて様々な視点からの情報交換や研究協議を行っており、他教科への広がりにつながった。

表1 《授業力向上・授業改善の取組アンケート集計結果（1月）：教員》 (%)

	項目	平成28年度			平成27年度		
		全	高校	中学	全	高校	中学
1	① ジグソー法を取り入れる。	36.1	34.6	40.0	30.1	28.3	35.0
	② ペアやグループで意見交換する。	88.9	84.6	100	87.7	84.9	95.0
	③ 生徒が説明する。	55.6	51.9	65.0	52.1	45.3	70.0
2	① 他教科の授業を参観したことがある。	77.8	73.1	90.0	72.6	67.9	85.0
	② 異校種の授業を参観したことがある。	62.5	63.5	60.0	53.4	50.9	60.0
3	教科会等で授業改善について協議したことがある。	87.5	86.5	90.0	84.9	84.9	85.0

**■5教科における知識構成型ジグソー法を取り入れた授業の取組**

- ・昨年度、重点教科であった国語、社会における協調学習（知識構成型ジグソー法）の研究を継続するとともに、本年度は、数学、理科、英語を重点教科として取り組んだ。
- ・国語については、本校独自に作成した知識構成型ジグソー法を取り入れた授業案が増えてきており、授業実践も昨年とほぼ同じペースで行っている。(表2参照、以下同じ)
- ・社会については、本年度は知識構成型ジグソー法による授業実践は少なかったが、アクティブ・ラーニング型授業には全教員が取り組んだ。
- ・数学、理科については、本年度、全教員（時間講師を除く）が1回以上、知識構成型ジグソー法の授業に取り組み、授業回数も大幅に増えている。
- ・英語については、英語教育プログラムのもと、アクティブ・ラーニング型授業が行われてきたが、本年度、知識構成型ジグソー法による授業を実践した教員も複数いた。
- ・保体や芸術の教員の中にも、次年度の研究に向けて授業実践に取り組んだ者がいた。

**課題と今後の取組（C、A）**

**課題**

**(1) 協調学習などのアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業研究**

**① アクティブ・ラーニング型授業の実践**

**■組織的で日常的、継続的な授業改善への取組**

・授業改善の取組が、公開授業の学習指導案等の検討が中心になっており、組織的で日常的、継続的な授業改善への取組につながっていない。

**■「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につなげるための実践研究**

- ・学習目標、評価規準、課題、振り返り等が生徒の実態を考慮した設定になっておらず、効果的な学習につながっていない場合があった。
- ・ペアやグループ活動、振り返り等を行ってはいるが、その目的が明確でなく、形式的になっている場合が多く、主体的、対話的で深い学びにつながっていない。
- ・協調学習では、複数で意見を出し合って話し合わなくては解決できないような難易度の高い課題の設定を目指しているが、生徒の興味・関心や解決への意欲をかき立てる課題設定になっていない場合があった。

**② 評価項目やワークシート作成の研究**

・教科会やチーム会等での学習指導案、ワークシート、評価項目検討において、思考の深まりにつながる発問や評価方法、言語活動の工夫につながる議論が十分に行われていない。

**③ 思考の深まりを適切に評価する評価方法の検討**

- ・授業後の評価の分析については、授業者個人の分析に任される部分が大きく、教科会やチーム会等での十分な検討に至っておらず、次の授業改善に活かしきれていない。
- ・協調学習による授業の評価については、「授業前後理解比較法」などの十分な分析に至っていない。

**(2) 「探究型学習（協調学習）事例集」の活用**

・「探究型学習事例集」の事例がまだまだ少なく、教科に偏り（第1集は国語・社会のみ）があるため、十分に活用できていない。

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知南：探究型学習について
--------	------------------------------	------	---------------

**平成28年度 の取組状況 (D)**

表2 《協調学習（知識構成型ジグソー法）による授業実践について》 ※H28は1月末報告分、H27は年度末集計、( )は高校教員が中学校で行った授業を含む

教科	平成28年度						平成27年度					
	全		高校		中学校		全		高校		中学校	
	授業者数	授業回数	授業者数	授業回数	授業者数	授業回数	授業者数	授業回数	授業者数	授業回数	授業者数	授業回数
国語	7	13	4	6	3	(7)	8	20	4	15	4	5
社会	2	2	1	1	1	1	7	5	6	4	1	1
数学	7	12	6	9	1	(3)	3	4	2	3	1	1
理科	5	22	5	21	0	(1)	2	6	2	6	0	0
英語	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
その他	3	4	1	2	2	2	2	1	1	1	1	0
合計	26	55	18	40	8	15	22	36	15	29	7	7

《協調学習に対する意見：生徒アンケートより》

- ・協力して話し合ったりするとわからないところ分かるようになるし、お互いの意見を混ぜ合わせたりするともっとよい答えが出たりして、ジグソー活動の素晴らしさが分かった。(高1国語)
- ・やっぱりジグソー法でする授業は楽しい。自分とは違うものの見方、考え方が開けてわくわくする。最終的に解決できなくても、自分から課題に取り組もうという意識ができる。(高1化学基礎)

**■校内研修会の実施、県外研修会への派遣**

- ・教員の意識改革や授業づくりのために、外部講師を招いて研究授業や校内研修会を実施した。
- ・「東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)」主催の研修会等へ高知南中・高等学校教員を派遣するとともに、報告会等校内での啓発にも努めた。

**■ICTの活用**

- ・生徒の主体的、協働的な学びの実現や視覚的な支援を目指して、ICTの活用促進に取り組んだ。ICT活用の校内研修会を夏休み等実施することで、授業での利用件数が増加した。 4月～9月(6ヶ月) タブレット利用件数 221件 10月～1月(4ヶ月) タブレット利用件数 266件

**② 評価項目やワークシート作成の研究**

- ・教科会や探究型学習推進チーム会において、学習指導案やワークシート、評価項目等の検討をしたり、校内研修会・研究授業を実施したりしながら、授業改善に努めた。特に、思考の深まりにつながる発問や評価方法、振り返り等の研究を継続して行った。
- ・東京大学 CoREF のメーリングリストに協調学習の学習指導案をあげ、全国の先生方から助言や意見等をいただく取組を本年度から開始した。いただいた助言や意見等は、教科会やチーム会で共有し、学習指導案やワークシート等の検討に反映させた。

**③ 思考の深まりを適切に評価する評価方法の検討**

- ・授業の終末には、本時のまとめとして振り返りをするように全教員が取り組み、振り返りでの記述に見られる思考の深まりを評価して分析した教員もいた。
- ・評価については、東京大学 CoREF による「授業前後理解比較法」などを用いた評価に取り組んだ。また、一部の教員が「多面的対話分析法」にも取り組んだ。

**(2) 「探究型学習（協調学習）事例集」の活用と第2集の作成**

- ・「探究型学習事例集」を校内研修会等で紹介、説明し、授業改善の参考資料とするように働きかけた。また、初任者研修や2年経験者研修の「県立学校研修」で活用した。
- ・「校内共有フォルダ」に東京大学 CoREF や高知南版の事例集や学習指導案集等を保管して蓄積していき、教員が手軽に利用できるようにした。また、新しく開発した学習指導案については、東京大学 CoREF にも提供し、全国の教員と共有するようにした。

**課題と今後の取組 (C、A)**

**今後の取組**

(1) 協調学習などのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業研究の継続

**① アクティブ・ラーニング型授業の実践 ② 評価項目やワークシート作成の研究**  
**■組織による日常的で継続した授業改善への取組**

- ・週1回の教科会、月1回程度の探究型学習推進チーム会を計画的に実施し、管理職や教育センター指導主事が指導・助言を行いながら、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善に向けて全教科が継続的に取り組む。

**■「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」につなげるための実践研究**

- ・教科会やチーム会等において、次の視点からの議論を深めて授業改善を行い、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた仕組みを構築する。
  - ◇生徒の実態を考慮した学習目標、評価規準、課題、振り返り等の設定
  - ◇思考の深まりにつながる課題（発問）や振り返りの設定、評価方法、言語活動の工夫
  - ◇ペアやグループ、振り返り等の活動の目的の明確化と活動内容の工夫
  - ◇見取りたい思考や思考プロセスの明確化
  - ◇ICTの効果的な活用

**③ 思考の深まりを適切に評価する評価方法の検討**

- ・「授業前後理解比較法」を用いた評価の分析を行うなど、アクティブ・ラーニングの評価について研究を進める。

**(2) 「探究型学習（協調学習）事例集」第2集の作成と普及**

- ・「探究型学習（協調学習）事例集」第2集を作成し、研修会等で活用するなど普及に向けてのシステムづくりを行う。
  - 〈主な内容〉
  - (1) 知識構成型ジグソー法の授業事例 ①国語 ②数学 ③理科 ④理科 ⑤英語
  - (2) 年間指導計画案
- ・「校内共有フォルダ」に保管している東京大学 CoREF や高知南版の事例集・学習指導案集等を、教員が手軽に利用できるようにし、さらに充実したものにする。

**【平成28年度 到達目標】**

学習の振り返りをし、学習者の習得状況を教員及び学習者にフィードバックする。  
 ↓  
 自分で「課題を発見する力」、「課題を解決する力」、「考える力」を身に付けている。